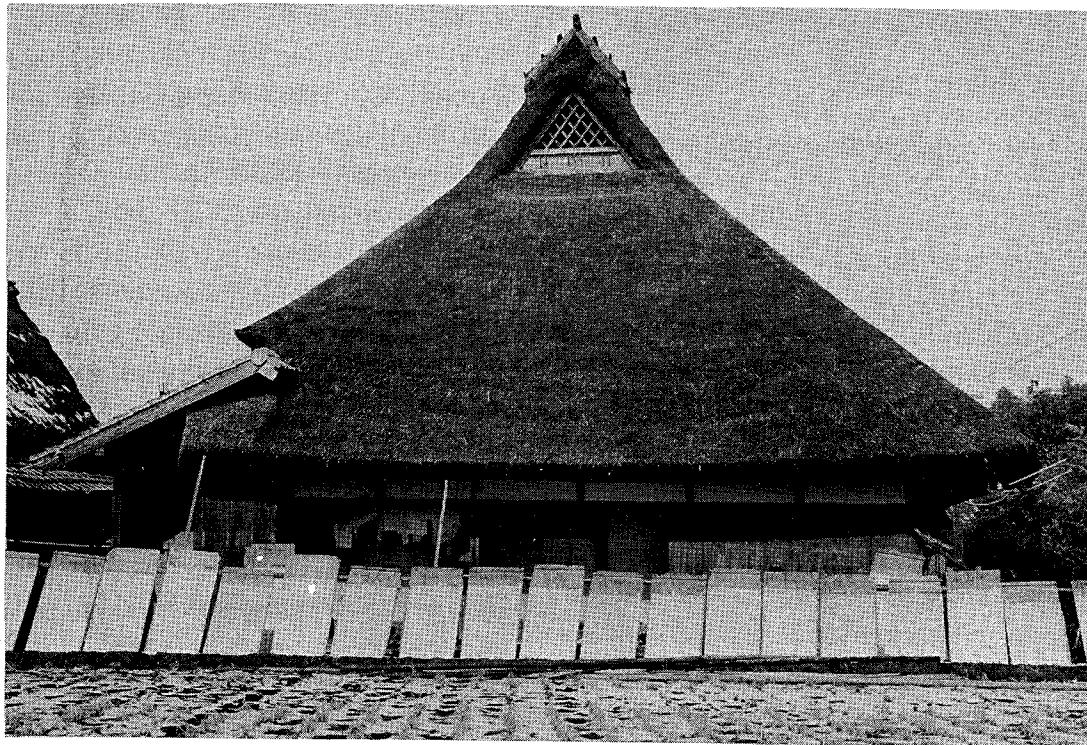


図書館だより

題字 島根県教育委員会教育長

号数 第17号
発行日 昭和47年3月1日
編集行 島根県立図書館
松江市内中原町52
TEL (0852) 22-5725
印刷 (有)高浜印刷所

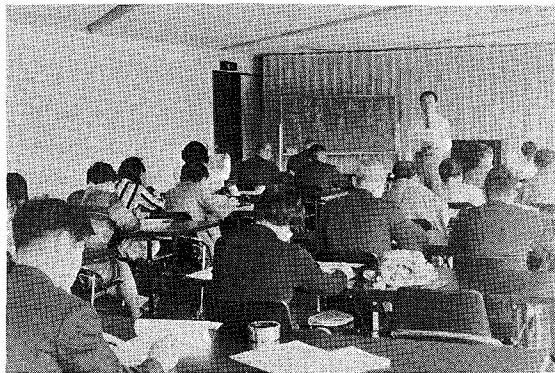


「古文書を読む会」のもたらしたもの

「古文書を読む会」が発足して満3年を迎えようとしている。思えば発会当初、誰が今日の盛況を想像し得たろうか。現在では、初級、中級一部、二部の三講座となり、会員も老若男女百名を越える。土曜日の午後にもかくわらず、出席率は極めてよく、中には3年間皆勤の方もおられる。読解力においては、もう講師の私など顔見けの人も多く、従って講義の前は予習で汗だくである。もう私の出るまくではないとつくづぐ思う。そのことは同時に無上の喜びでもある。一体どうしてこんなに盛況なのか。図書館の力の入れ方もさることながら、郷土の歴史に対する関心が、澎湃として湧き起っている現実も無視できまい。いささか手前味噌だが、この会は郷土史の研究に大きく貢献しつつある。第一に県下各地で「古文書を読む会」が発足し、地域の歴史的関心に拍車をかけた。第二に古文書の会員の方々が、歴史的文献を大切に保存しなければならぬ使命感のようなものをもってくれたこと、第三に何より嬉しいことは、県立図書館の郷土史関係の図書が充実され、又、重要古文書がどんどん購入又は寄託保管されるようになったことである。

古文書を読むのは楽しい。何故なら、一片の歯牙からマンモスを復元してみせる古生物学のように、たった1行の古ぼけた紙きれの文字から、埋もれた歴史が無限に現われ出でるからである。出来る限り続けたいものである。

松江南高校 藤岡 大拙



婦人教室に参加して

小松君江

県立図書館の婦人教室に参加して一年。

去る2月最後の10回目を終ったばかりです。

県立図書館との密接な関連をもちながら、わたし達の町にも読書グループを作りたいとの目的もあり、30代の若い方3人と共に、市外から参加したわけですが、一年をふりかえって、よかったですよかったの一言につきます。

この上もない環境の中での読書会、それにもまして集まっている人達のかもしだす雰囲気のすばらしさ。同じ本を読んでの感想もいろいろ。それぞれに個性のある人達があるいは鋭い感覚で、あるいはまろやかな情緒で、あるいは豊かな経験で話しあう班別読書会、なんといっても楽しい時間でした。

一冊の本を読みあげていかねばならぬ一種の義務感に似たものも、主婦業のあい間をぬって読む苦痛感も今はなく、読み出したら一息に読みあげていくかつての女学生を想い出す今のわたしです。

時に女性史を聴講し、時に婦人問題を討議し、過去、現代、未来の女性像を胸につよくきざんだあの感銘——すばらしかったですね。人のふれあいのありがたさをしみじみと味合う会でもありました。

わたしの住む町、東出雲町にも読書グループが誕生し、第4回を終ったところです。県立図書館の親心で、いろいろ便宜をはかっていただきました。毎月貸し出していた本は、地域をつないでいます。

今、田中寿美子著「女性にとって生きがいとは何か」をみんなで読みだしました。

中央での、地方での読書グループの明るい声に、深い人の心にふれる幸せをかみしめています。

図書館

古文書を読む会

三島武義

「古文書」といえば、有名な古社寺、あるいは旧家の奥深く保存されていて、普通では、とうていお目にかかる事はできない書きものであり、また、それがかりに拝見できたとしても、これを読むということはとても至難であるという「イメージ」がある。このせわしい世の中に、そのようなものは専門家にまかせておけばよい、といった考え方が普通ではなかろうか。勿論、それらの貴重な文書類は、史料的にもまた文化財的にも専門の方々に解説していただきということは大切である。しかし、たとえ素人であっても郷土の史実を探ることになると、これらの古文書は第一等の史料であって、どうしても解説しなければならない破目になる。ところが、さて勉強してみるかと思っても、どうしたらよいのか、まず本屋さんで参考書を探すことになるが、適当なものが手に入らない。ところが幸いなことに県立図書館では、「古文書を読む会」の講座が設けられ、郷土文書を中心に中世、近世、それに入門の部などそれぞれの講師の方が担当され、極めて懇切に先達されている。私も実は全くの素人である。ところがたまたまちょっとした調べものがあったので、何か得るところがあるではなかろうか、と言ったほんの思いつきの気持ちで参加しはじめたが、すでに間もなく2年になる。だがやはりむずかしいことは事実である。解読能力はまことに遅々として進まない。時に低能感さえ覚える。だが、難解な文字がでてくると何とかして読み下したい意欲がわいてくる。教材は勿論写してあるが、その原本のなかには文化財指定のものもあったりして、その点結構楽しみもある。ところで古文書なるものは、ひらたく言えば全国一つの手本で統一されたかのように通用度が高いことは全くの「オドロキ」である。そこで読むということと併行して、古文書のもつ基本的なもの、いわゆる古文書学なるものも研究してみたらと欲張った考えをしている昨今である。

行事に参加して

古典文学を読む会

森 淳

県立図書館当局の御配慮により去る11月より「古典文学を読む会」を開講して頂き、久しう振りに『源氏物語』のロマンの世界にひたることができました。女人の目を通して見た貴族階級の勢力闘争、又、光源氏という理想の男性をめぐる女性達の群像、いつの世も変わらぬ人間らしい悩みや恋、無常感……。金儲けも何も彼も忘れての2時間。毎月2回の講義が待ち遠しいくらいです。毎週聞けたら良いなあと思ったりしますが会場の制約等があって現状で精一杯のことです。

さて、そこで一つの提言をしたいと思います。図書館へ勉強に来ていて席が無くてベンチで読書している学生達を見るにつけても、ぜひ図書館に別館を建設して学生、成人の為の勉強室、集会室を造って勉強の場を作りたいと言うことです。島根国体が昭和51年に開催されるようありますが、文武両道と言う言葉もありますので体育偏重でなく知育、德育の方面にも充分の力を注いで頂くことを県当局をはじめ要路の諸賢にお願いすると共に県民運動として県下各地に図書館を新設、充実する運動を起こしたいものです。特に「国際文化観光都市」の市長さんには温泉も湧いたし、体育馆建設も計画中との事ですが、ここらあたりで市立の図書館、公会堂をぜひお造りになるようお願い致します。今のままでは文化の2字が泣いているではありませんか。

かつて明治の時代に旧津和野藩より俊秀が雲の湧くが如くに輩出した理由は、今更私が言々する迄もないことだと思います。資源の乏しい島根県の行く道は人材の育成、知的産業の振興しかないと思います。

昔、アテネは方一里にみたない小国でしたが、その中に哲学、芸術、演劇を生み、又、オリンピック発祥の地でもあります。明日の島根も小さくかつ貧しくとも、かのワーザワースの詩句の如く「暮しは低く思いは高く」ありたいと思うのであります。

「古文書を読む会」

近年郷土史に対する関心が年々高まり、その研究者も漸増しています。しかしながら古文書を解読できる人は少ないため、解読できる人の養成と県内各地に散在している古文書の発掘を目的に、当館では次のとおり講座を行なっています。

どなたも、ご自由に参加ください。

入門講座（初心者を対象）

毎月第1土曜日 午後2時～4時まで

講師 県立図書館嘱託 桜木 保

1部講座（初級者を対象）

毎月第3土曜日 午後2時～4時まで

講師 近世文書 県立出雲高校 教諭

藤沢 秀晴

中世文書 県立松江南高校 教諭

藤岡 大拙

2部講座（中級者を対象）

毎月第3土曜日 午後2時～4時まで

講師 1部に同じ

「古典文学を読む会」

昨今古典文学に対する関心が高まりつつあります。

これに応えるため昨年11月から、てはじめに『源氏物語』からはじめました。

最近口語訳源氏が多く出版されていますが、それは話の筋を追うのに便利であっても、源氏のもつ精神や、心理の微妙なはたらき、王朝時代の精神生活を理解し、味わうにはやはり原文を読む必要があります。この古典文学を読む会において文章美、人間の姿を味わっていただきたいと思います。

開催日時 每月第2第4土曜日（14時～16時）

講 師 広島女学院大学教授 宍道 達

「図書館婦人教室」

豊かな家庭生活を築き、現代の社会生活に適応する婦人を育成し、併せて地域読書会のリーダーを養成するため、主婦を対象に読書会をはじめ、講義や映画学習、研究討議をおこない、読書普及の浸透と定着化をはかっています。

開催日は毎月第3火曜日（10時～15時）

年間10回開催

講師 島根女子短期大学教授 壇原そえ子

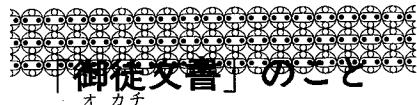
モ デ ル 文 库 紹 介

赤来町モデル文庫

赤木町は、広島県と石見に境を接する、いわゆる奥飯石高原に在り、古くからの水田単作地帯です。昭和42年6月県立図書館からモデル文庫設置の指定を受け、現在1,099冊の図書が、来島公民館に配置されております。来島地区は、琴引山に一部源を発する神戸川や来島ダムを抱える風光に恵まれた地で、近く自然休養村として、国の開発を待っているところです。公民館は、明治初年の古い建物ですが、モデル文庫の指定を受けたのを機会に、閲覧室を整備しました。この地方は、むかしから農業一筋に生きた村で、人情は純朴ですが、本に親しみ、深い思索のなかで語り合うなど、眞の意味での文化のくらしに乏しく、さまざまな時代の推移を経てきました。最近では、婦人や老人たちは、出嫁ぎの男たちが残していった荒仕事や、世間付き合いに出かけねばなりません。激しい労働や雑用に追いまくられるめまぐるしいくらしに、育児や子どものしつけにとまど

うこともあります。こうした山村に、読書サークルなどがあって、いろいろと話し合うことは、誰もが望むところであり、モデル文庫はそれに応えて大きな役割を果たしました。

公民館も町費や寄附金を仰いで、1,000冊の新刊を配架しました。なかでも、児童文学に重点をおきましたところ、これまで、めったに手にすることのなかった子どもたちから、大歓迎で、公民館もこれら豆読書人でぎわっております。しかも、このことがおかあさんたちの読書意欲にもつながり、家と本との絆になったことは喜ばしいことです。今後は、部落公民館を拠点にして、部落ぐるみのサークル育成に努め、映画やスライドなどを活用して、この文庫が、人々の身近なものになるよう考えております。忙しい人々を対象にして、このような館外活動は容易ではありませんが、なんとか頑張りたいと思います。



島根県警察本部が所蔵していた「御徒関係文書」約270点がこの程、県立図書館に寄託されることになった。「御徒関係文書」は長い間、門外不出として暗い倉庫の中に眠りつづけていたもので、2、3の研究者の間では徒らにこのことを卿つのみで、われわれ図書館人としても同様、隔靴搔痒の感をもってここ3、4年来、その移譲を強くのぞんでいたもので、それだけに喜びも一入である。松江藩の公文書がこれ程多く纏ったかたちで残されているものは他にはない。県警本部が今日迄門外不出として保管されてきたから散佚もせずに残されていたものであろう。

今回の県立図書館への移譲は当事者の御理解の結果であるとして謝意を表したい。眞の意味の保存は公共の機関が充分なる施設のもとに、善良な管理を

しながら研究者の便に供することこそ積極的保存というべきではないかと思う。それは単なる低次元のこつとう越味や安価な郷愁ではない。「御徒関係文書」の内容はまだ細かな分類をしていないが大体、

1. 公事記録（在府、在藩の）
2. 藩士の出自、家門、有職故実、ユウソク チッヂョク（加増、褒賞、改易、閉門等）
3. 養子縁組届
4. 在郷の山論、海境差縛等々である。就中、2の如きは図書館所蔵の「烈士錄」56冊の原流をここに需められるものではないか。また4については藩の法制史研究資料として充分役立つものと思われる。

なお、図書館は昨年11月池尻家文書（村方文書）約500点入手したのであるが、時々刻々散佚する運命にある生資料の蒐集こそ焦アシテってはならない急務である。

図書館資料紹介

1. 図書

「対断・私の文学」 インタビュー秋山 駿

講談社 590円

本書は「私の文学を語る」と題し、昭和43~44年に雑誌「三田文学」に連載されたもので、16人の作家一人一人に自己の文学についてインタビューした記録である。

収録作家は、江藤淳、野間宏、大江健三郎、高橋和巳、安部公房、埴谷雄高、三島由起夫、福田恆存、吉行淳之介、北杜夫、安岡章太郎、井上光晴、石原慎太郎、大岡昇平、吉本隆明、深沢七郎の各氏である。作家の肉声を聞く思いで興味深い。

司書補 大国久美子

「飛驒の系譜」 桑谷正道著

日本放送出版協会 580円

合掌造りで知られる白川村、一刀彫りで全国的なアームを呼んだ円空の仏像、平家、源氏が南北に分かれて生活していた落人部落等、飛驒の山奥で培われた歴史と民衆文化を紹介。土着の地域文化に注目し、豊かな生活を願って企画されたこの本に刺激され、新旧調和した日本人の心のふるさとを、誰でも一度は訪れたいと思うでしょう。

司書 来島弥生

「元禄時代」 大石慎三郎著

岩波書店（岩波新書）昭和45年刊 150円

元禄時代というとき、台頭する新興商人と、彼らによって支えられた西鶴・師宣・光琳らで代表される町人文化や、赤穂事件、將軍綱吉の信頼厚かった柳沢吉保の賄賂政治等が念頭に浮ぶ。そしてそのイメージは何となく退廃的であるようにいわれている。しかし実状はそうであったろうか、と著者は疑問をなげかけ、経済的側面から解明しようとする。

昭和元禄ともいわれる今日、興味をそそる書物である。

司書 豊田邦雄

「茗香」 里井達三良著 科学情報社刊 700円

玉露の銘から名づけられたこの書は、著者が大阪商工会議所専務理事等の実務の間、その対称を実業界・家族・親しい友・先輩・旅・そして美しい自然に求めながら書き綴った隨筆集である。私はこれを著者の部下であった友からすすめられた。その人と私とでは読後感が異なるのは当然かもしれないが、

2人が共通して感じたのはどの一篇をとってもその題材への著者のあたたかい眼=愛情があるということだった。

司書 深田百合子

2. 映画フィルム

友情について
(黒白20分)



幸代には、小学校時代から親しい2人の友だちがいた。河村さんは静かでやさしく、よく気が合っていた。西本さんは絵も、走ることもすばらしく、いつも競争相手としてよい友だちだった。しかし、中学1年の中ごろから、河村さんと幸代の間にはライバル意識が高まり、ついにささいな誤解から絶交に立ち至った。ところが、その河村さんが交通事故にあって入院した。幸代は我が事のように悲しみ、すぐに見舞にとんでいった。河村さんもしきりに幸代に会いたがっていた。2人は知らず知らずに手をにぎり合い泣いていた。以上がこの映画のあらましである。

この映画は、従来にない形式で構成されている。すなわち、主題に関する八つの金言の、文章そのものを提示し、それに映像としてのエピソードを二、三配置して、一つの思想を表現している。

ここにとりあげられている文章は、眞の友情というものの、そしてその重要性を理解させ、また考えさせるに適切なものである。

この映画は「友情」という言葉に対するイメージが薄くなりつつある現代の中学生にとって、眞の友情というものは、なにかということを考えさせ、また考えることへの興味と、意欲をたかめるはずである。

振興課

XXXXXX
寄 贈 図 書
XXXXXX

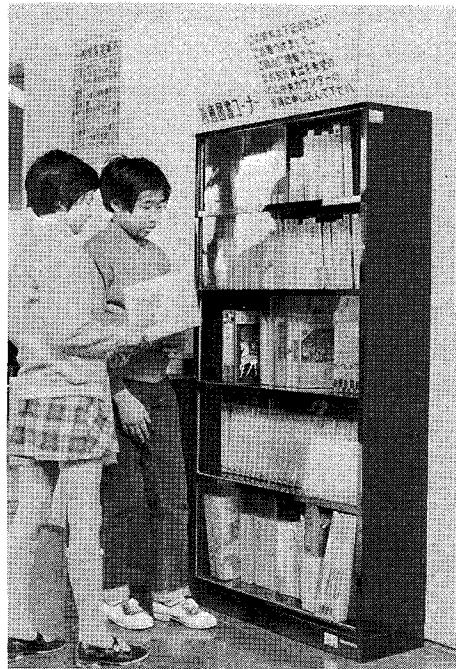
前号で“慶弔の返えしに本をどうぞ”と呼びかけていたところ、去る1月22日松江市南田町の森淳氏から不動産鑑定士補の試験に合格した祝いにと5万円相当の本の寄贈をうけました。

さっそく整理をし、一般閲覧室前に“善意図書コーナー”を設け、下記の本を展示しています。

現代世界百科大事典	講談社 3冊
世界のどうぶつ	学研 5冊
新選古語辞典	小学館 1冊
最新俳句歳時記	文芸春秋 5冊
なぜなぜ理科学習漫画	集英社 12冊
古典文学全集	ポプラ社 26冊
お話宝玉選	1冊

なお、この趣旨に賛同された松江市本庄町大通寺住職市川天外氏からも千円相当の図書の寄贈を受けました。整理が出来次第下記図書を“善意図書コーナー”へ配架する予定です。

生活に役だつ実用書道 小林 湖東著 東都書房



—— 11月 1 日 から

- 11月 1 日 高校新聞展 (11月中展示)
 移動図書館特別巡回 (1日安来市、広瀬町、2日大東町、木次町、4日三刀屋町、頓原町、5日赤来町、大社町、6日八雲村)
- 8 日 読書普及振興大会
 9 日 移動図書館特別巡回 (9日出雲市、桜江町、10日川本町、石見町、11日瑞穂町)
 10 日 図書館婦人教室文芸散歩 (1泊2日益田市、津和野町)
 12 日 島根町加賀小学校50名見学
 13 日 郷土文学を語る座談会
 16 日 BM (横田仁多コース 3泊4日)
 18 日 宍道町来待小学校60名見学
 20 日 友の会文化財めぐり (広瀬町)
 24 日 県公共図書館協議会総会 浜田市
 BM (那賀コース 2泊3日)
 25 日 購入映画選定試写会 (25日26日)
 27 日 第4回島根県芸術文化祭文芸部門表彰及び講演 (27日県民会館、28日江津市)
 30 日 BM (邑智コース 3泊4日)
 (11月中閲覧者総数 9,776名)
- 12月 1 日 写真集のできるまで展 (12月中)
 3 日 青年国内研修生見学
 6 日 BM (美鹿コース 4泊5日)
 13 日 鹿島町佐陀婦人会30名見学
 14 日 BM (伯太コース)
 15 日 BM (平田、大社コース)
 16 日 BM (島根半島コース)
 音楽講演会 (講師 東京音楽大学教授、秋山龍英氏)
 17 日 BM (八束コース)
 20 日 大東町春殖婦人会20名見学
 (12月中閲覧者総数 8,735名)
- 1月 13 日 保育専門学院生20名映画学習
 22 日 善意図書寄贈 (松江市南田町、森淳氏より寄贈)
 (1月中閲覧者総数 10,512名)

毎月第1土曜日 古文書を読む会 (入門)

古典文学を読む会

第2土曜日 文化映画を見る会、ステレオコンサート

第3土曜日 古文書を読む会 (1、2部)

第3火曜日 図書館婦人教室

昭和47年度 新規事業きまる!

◎読書利用傾向調査

読書普及をすすめるうえで、一般住民の読書傾向や、利用の実態を把握することは急務である。このため県下一円を対象に調査地区を設定し、読書量や、読書の動機、目的などを追求し、図書館が行なう読書普及、サービスエリアの改善などに反映させ館外奉仕活動の充実と拡大をはかるため、6月頃に調査する予定にしています。

◎一日図書館

情報化時代にあって公共図書館の果たす役割は大きい。このため図書館未設置市町村を重点に一日図書館を開設し、該当市町村の首長を一日図書館長に招き、関係地区内を図書館車にて巡回したり、図書の貸し出しや、映画会を開催して地区民に図書館に対する認識の昂揚をはかりたいと思います。10月頃実施の予定。

◎中国文化講座

最近中国問題が脚光を浴びている折から、中国文

化講座を開講して中国文化を探求し、現代中国を認識するのに役立てたい。

講座は、月1回県立図書館で、てはじめに中国史からはじめる予定。（開催日 講師未定）

◎蔵書目録の作成

当館には現在 152,000冊（昭和46年12月現在）所蔵していますが、これを2ヶ年計画で冊子式目録を作成することになりました。

この目録が完成しますと、県内の市町村教育委員会、市町村立図書館、モデル文庫等に配付し、これによって、当館の蔵書の周知徹底をはかりながら、広く県民の皆様にご利用いただけるよう計画しています。

◎個人聴取ブースの設置

最近の出版界の動向は、レコード、録音テープ、ソノシート等を併用した図書の出版が目立っています。今後さらに増えることが予想され、これにかんがみ図書館ではこれらの図書と併用して個人聴取ブースを児童室に設置することになりました。視覚だけからでなく聴覚からも図書が利用できます。

昭和47年度行事予定

〔県立図書館〕

項目 旬	行事・事業名	場 所	内 容	展 示
4	上			
	中	春季ばく書（10日間）	当 館 図書の点検、整理	松江市小
	下	自動車文庫利用研究協議会	〃 自動車文庫各取扱主任者	中学校卒
	上	県読書推進運動協議会	〃 県公団・学校・大学・工専図職員	業文集展
5	中	図書館協議会	〃 協議会委員	
	上	こども大会（こども読書週間）	大東町、木次町 小、中学生	
	中	県公団書館協議会春季総会	当 館 県公共図書館	講談社絵
	下	自動車文庫巡回（第1回）	関 係 市 町 村 読書会等	本複刻資
6	上	映写機登録検査	〃 関係10市町村	料展
	中			
	下			

新着資料の紹介

1. 図書資料

○総記

書名

基本件名標目表 改訂版
日本目録規則 1965年版

著編者

日本図書館協会
実例集〃

みんなの健康

医療不信時代

医学思想史 第1巻

日本動物記 第1~4巻

朝日新聞科学部

水野 肇

宮本 忍

今西 錦司

○哲学

「いき」の構造

九鬼 周造

中国古代の思想家たち（上・下）

郭 沢若

ニーチェー時代の告発—

原 佑

現代人と仏教

笠原 一男

宗教社会学

小口 健一

○工学

現代都市学シリーズ 第1~4巻

建築計画画 6. 10. 11. 12巻

（写真集）日本の店構え

設計工学シリーズ 3. 5. 6巻

一錢五厘の旗

柴田 徳徳

吉武 泰水

高橋 南勝

坪内和夫等

花森 安治

○産業

日本産業史大系 1~7巻

東洋の米・西洋の小麦

走りつけた蒸気機関車

（序説）海上交通工学

地方史研究協議会

栗原藤七郎

野島富三郎

藤井 弥平

○芸術

幽玄とあはれ

クラシックの散歩道

日本芸能の主流

大西 克礼

服部 公一

志賀 剛

○文學

日本古典文学館 複刻 第1期 全5巻

○レファレンス

日本教育年鑑 1972年版

日本の出版社 1972

（昭43年度）国語国文学研究文献目録

天文年鑑 1972年度版

2. 視聴覚資料（16ミリ映画ファイルム）

題名	卷数	内容	対象
森林は生きている (森の生物たち)	カラー3巻	森の生物たちの生態を四季の移り変りの中に、生き生きと らえている。	中、高、成
ゴリラ大陸	カラー4巻	壮絶なゴリラ狩りと、なまなましいアフリカの猛獣の生態を アフリカ探検家として有名なアーマンドデニス夫妻が記録し たもの。	小、中 高、成
富士に結ぶ友情	カラー3巻	第13回世界ジャンボリー記録映画	〃
ある若者の出発	黑白3巻	青年が周囲の環境の中で、ささいなことで微妙に変化してい く過程を描き、青年たちが「やる気」を起こすための要因を 考える。	青、成、婦
友情について	黑白2巻	真の友情は、お互いの理解と敬愛により、信頼感が深まって いくところに成立するものであることを理解させる。	中、高
子供の幸せ とは何か	黑白3巻	父親と父親になろうとする末子との対話を通して、子どもの 本当のしあわせとは何かを示唆する。	青、成
子供の不満 と耐性	黑白2巻	欲求不満は、人間形成に深い関係がある。欲求不満の意味や 巧罪を明らかにしながら欲求不満を克服していくためにはど うしたらよいかを明かにする。	成(婦人)
海底の神秘	カラー3巻	透明度日本一の沖ノ島周辺海底を中心に、空腸動物の棲息、 発育状況、魚類の生態等を撮影したもの。	小、中 高、成